

# 地域資源の保存・再生活動の持続可能性に関する調査・分析 (山梨県南巨摩郡早川町・赤沢宿の保存再生活動を通して)

日大生産工(院) ○堀内 里美  
日大生産工 坪井 善道

## 1. 研究の背景と目的

日本は多様な風土持ち、その特性を活かし、周りの環境に適しながら集落・まちなみを形成していった。しかし1960年代の高度経済成長を期に、全国的に農産漁村における過疎・高齢化が進み集落が消失している。日本の原風景が失われることへの危機から各地で町の保存を訴える市民運動が起こり、これを受け伝統的建造物群保存地区制度が設けられた。2008年現在、重要伝統的建造物群保存地区(以下重伝建地区)に選定された地区は83地区にのぼる。しかし、重伝建地区に選定された地区であっても人口の流出は止めることができず、地区維持が難しい状況になっている。

本研究では、1993年に重伝建地区に指定された赤沢宿の保存活動、持続可能性に関する調査をおこなった。自動車の交通が発達する昭和30年代まで、赤沢は日蓮宗総本山である身延山久遠寺と霊山七面山とを結ぶ参詣道上の宿場として、また身延山から七面山への物資運搬の基地として栄えた。赤沢集落に立地した旅館は、参詣集団である「講」の定宿として利用されたことから「講中宿」と呼ばれた。その後、表登山口までの車道が開通すると、赤沢を経由せずに身延山と七面山に参詣することが容易になり、赤沢を訪れる人は減少した。現在、集落内で営業している講中宿は1軒のみである。

赤沢の重伝建指定建造物の特徴は、短冊状の敷地に切妻平入型の造りで、内戸の外側にはL字型の通り土間があることである。これは、この地域がかつて旅館業で成り立っていた時代の名残で、この土間から一度に大人数の宿泊客が客室内に入ることができるよう工夫されたものである。また、緩斜地に立地する集落の性格上、各家は山手に石垣を背負い、谷に向かって開かれた屋敷配置を取っている。石垣は「ごぼう積み」で水はけが良く苔むし、石垣の隙間に草花が咲いている。

赤沢の町並みは伝統的な建造物・石垣・坂道・石段などから構成され周辺の山並みとよく調和した集落景観を保っているため重伝建地区選定にいたった。



Fig.3 赤沢集落

本研究では、赤沢の保存活動の持続可能性を調査することで、今後人口流出が見込まれる赤沢を如何にして人口流出を止め、人口を増やすかについて、2006年の調査結果を踏まえながら考察する。

## 2. 調査概要

赤沢において、2008年8月から2008年12月まで計6回にわたり現地で住民へのヒアリングを中心に調査を行った。

ヒアリング項目は2年前(2006年)の調査結果と比較して変化した点、赤沢から何らかの事情で外へ出てしまった人々に今後赤沢に戻る予定は有るか否かなどである。



Fig.1 講の宿泊客

Fig.2 現在の講中宿の様子

Survey and analysis of the sustainability of conservation and reclamation of local resources.

— Through the conservation and reclamation activity of the Akasawa Hayakawa-cho, Minamikoma-gun, Yamanashi Pref —

Satomi Horiuchi, Yoshimichi TSUBOI

### 3. 調査地概観

#### 3.1 人口

2008年10月現在で69人、26世帯が居住しており人口構造はやや逆ピラミッドを描いている(Fig. 4)。赤沢の高齢化率は49.3%で全国水準である22.0%(2008)や山梨県の21.8%と比較して高齢化の遥かに進んだ状態にある。

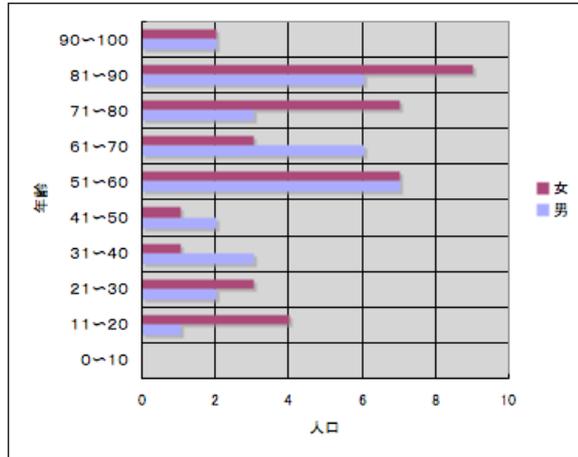


Fig. 4 赤沢人口構成 2008年現在

#### 3.2 空き家

集落内に現存する39戸の住宅のうち15戸が空き家となっている(fig. 5)。

赤沢の空き家率38.4%は早川町全体の37.2%

と比較して上回っている。このうち6戸が2000年以降の転出で、高齢者世帯を中心とした集落外への転出が増加している。また、独居世帯6戸のうち4戸が65歳以上であり4戸とも家の後継者の予定が無いことから今後更なる空き家の増加が見込まれる。

#### 4.1 まちづくりにおける各組織

赤沢では現在「赤沢青年同志会」「赤沢そば組合」「赤沢町並み保存会」の3つの組織が活動している。

##### 1) 赤沢青年同志会

赤沢青年同志会は1980年から結成された。さびれ行くまちに危機感を持ち「将来子供たちに住んでもらえるまちづくり」を掲げUターン者を中心に活動が始まった。活動内容は伝統的な年中行事の復活、町並み保存などのまちづくり活動である。青年同志会という組織を他の居住者に理解してもらう為に、1) 会合では禁酒、2) 出席を強制しない、3) 寄付を強要しない、4) 会合の内容を回覧で回す、といった4つのルールを作り、少しずつ周囲の住民に理解されていく形となった。青年同志会の活動が盛り上がり、赤沢は重伝建地区の選定に至った。

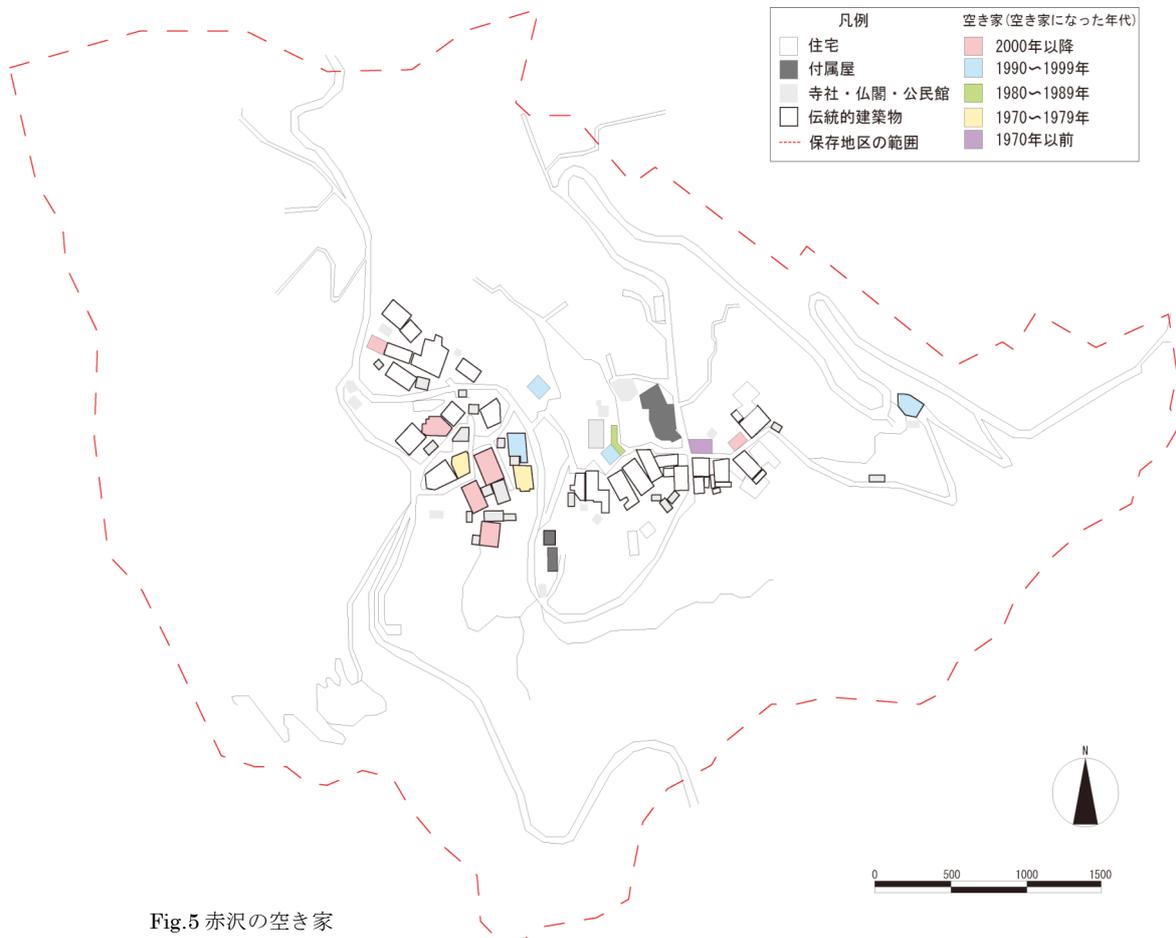


Fig. 5 赤沢の空き家

現在会員は17名であり、年齢層は50代～60代になっている。活動は持続することを前提と考えており、「出来ることを無理のない範囲で」やることで、活動そのものが負担にならないように行っている。仕事や地縁組織において重要な役に就く年齢となり忙しいことと、修景が進み目標が達成されつつあることから同志会としての活動は減ってきている。

しかし、仕事を引退した後のビジョンとして赤沢におけるまちづくりの案を温めている人も多い。同志会のメンバーも観光地化に反対しているわけではない。これまでのまちづくりの理念として観光を目的としなかっただけである。仕事を引退した後の活動プランはみな集客を目的とした内容であった。

## 2) 赤沢そば組合

赤沢そば組合は赤沢での地域活性化活動の新しい試みであり、2003年から始まり今年で5周年を迎えた。

赤沢は参詣客が多く訪れていた頃、「巡礼そば」として手打ちそばが名物であった。重伝建地区に選定され観光客が訪れるようになったものの、とどまる場所が無い。また、往時を知る参詣客から「巡礼そばが食べたい」と要望があったことから、「そば組合」を立ち上げ、そば屋を営業するようになった (Fig. 6)。

組合への加入は世帯単位で、現在13世帯が加入している。組合が始まった頃は旅館で間借りするなどして営業していたが、2005年に集落内の空き家を修理し店を構えるに至った。間借りしていた頃は予約日やイベント時などの不定期営業であったが、現在は土・日・祝日と平日は予約日に営業を行っている。現在のところ組合員も各自仕事を持っているため基本的に休日のみの営業であるが、毎日営業することを目指している。

5年を経た現在、毎日営業するまでとはいかないが、経営の仕方に慣れ軌道にのり始めている。常連さんが多く、また訪れたいという人が多くなっている。



Fig. 6 赤沢そば処



Fig. 7 妙福寺保存修理工事

## 3) 赤沢町並み保存会

住民たちの手によって町並みの保存・活用を行うことを前提とした重伝建地区制度であるが、これまで赤沢は専門家が老朽化の激しい建造物を優先的に修景する様に提案し、集落がそれを受け入れるという形をとっていた。そのため住民間で次にどの家を修景するかなどの周知がうまくなされない状態にあった。このことが住民間で不満や無関心を引き起こす要因になるという声が上がって2006年に立ち上げられた会である。

会は赤沢の全住民をもって組織されている。「妙福寺」は老朽化が激しかったが費用が他の修景とは違い多大にかかる為、後回しになっていた。しかし現在、赤沢伝統的建造物群保存地区保存事業として、念願の「妙福寺本堂」の保存修理工事がH19.7.25～H20.11.12の期間で行われている (Fig. 7)。

## 4.2 まちづくり活動と問題点

「赤沢青年同志会」「赤沢そば組合」「赤沢町並み保存会」各組織ともに、赤沢宿を盛り上げ、住民が住みやすい環境を整える為に活動が行われてきた。

しかし、居住者自体の高齢化が進んできている為、活動している主体の人々の年齢層も高くなってきている。年齢層が高くなってきていることで、活動に対する負担が大きくなってきていることも事実である。「赤沢青年同志会」では活動が負担にならない為にも「出来ることを無理のない範囲で」ということで行ってはいるが、活動が減少しているのは事実である。

今年行われた「千灯祭」では集落内に提灯を並べ、去年以上に大きい花火をしたものの、見る人が少なかった。今後、高齢化が進む中で活動をどの様に持続していくのかが、まちづくり活動において鍵となってくる。

## 5. 赤沢の問題点と提言

### 5.1 問題点

#### 1) 人口

赤沢の人口は年々減少しており、高齢化も進んでいる状態にある (Fig. 8)。この地域を担う若者 (11歳～30歳) が赤沢に10人しか残っておらず、人口の1割という少ない割合である。

人口減少の要因には、

- ・ 高齢者が1人での生活に困難になり、子供の居る所へ引っ越してしまうケース
- ・ 勉学や結婚などで、若者が赤沢から出ていってしまうケース

が挙げられる。赤沢にUターン、Iターンしたいという人も居るが、

- ・ 職がない。
- ・ 家族で戻りたいが子供が小さい。
- ・ 生活環境が不便である。
- ・ お金がない。

など理由は様々で、数年で戻って来ることは見込まれない。

今後人口流出を止めるには、若者の力が必要であり、若者が戻って来る事が出来る環境を整える必要がある。

## 2) 空き家

人口減少に伴って、空き家の増加が目立って来ている。2年前と比較して少数ではあるが増加している。伝統的建築物は人が住んで居ないと老朽化が激しく、補修も大変になってくる。また、赤沢の住民が金銭的・労働的に負担がかかる。

空き家の増加を防ぐ為にも、町では空き家を一般の人に提供しているが、

- ・独特の場所柄から住むにあたりお金がかかる。
- ・地域の人々が受け入れに対する覚悟がある。
- ・住んでも、職がない。

などの問題点から、移住してくる人が少ないのが現状である。移住しても職がない上に、お金がかかるという悪循環が生じる。

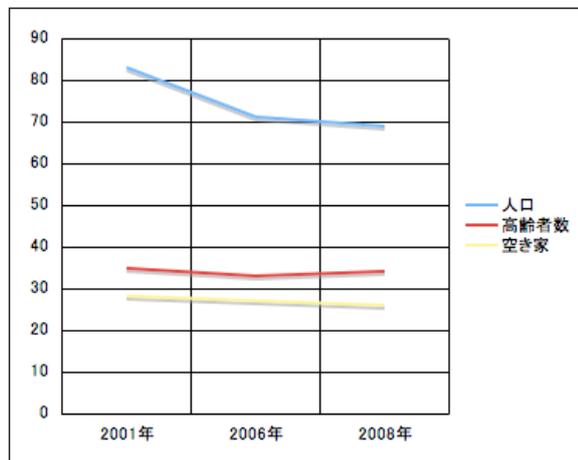


Fig.8 赤沢の人口・高齢者数・空き家の比率

## 5.2 提言

さまざまなまちづくり活動を経て、赤沢宿は重伝建地区に指定された。これは、「赤沢青年同志会」「赤沢町並み保存会」が持続して活動を行って来たからである。今後もこの活動を維持し、赤沢を活性化していく為には、活動自体の新たな思考が求められてくる。最も、人口流出を食い止めなくては活動の持続可能性も低くなっていくのが現状である。

赤沢は重伝建に指定されている為、訪れる人は、歴史・文化・建築の専門家が多い。赤沢自体は専門的な人の訪問以外にも、一般の人に訪れて欲しいと思っている。観光地化しては困るが、次世代に残す為にも赤沢宿に活気を戻したいと考えているが、進展は難しいと考えている。2003年に立ち上がった「赤沢そば組合」の様に、観光の面から見た新たな活動の提案が必要不可欠となってくる。

2年前に行われた「重伝建地区選定10周年記念行事」では、住民が主体となり外部の人々と交

流をすることによって、住民自体も赤沢の良いところを再認識でき、外部の人にも赤沢の良い所を知るきっかけとなったイベントであった。このイベントによって、赤沢を知ることが出来た外部の人が居たが、現状を打破するまでには至らない。

このようなイベントを定期的に行い、赤沢という所、赤沢の素晴らしさを外部の人に多く共感してもらえたら、赤沢自体も活性化されるのではないかと考える。

観光面で活性化されれば、「Iターンしたい。」という若者が増えることも見込まれる。

しかし、UターンやIターンを希望する若者に対して、赤沢の環境が整っていないのが現状である。大きな要因の1つに挙げられるのが「職がない。」ということである。赤沢は山村集落であり、周りは山に囲まれている。赤沢宿自体に働き口はなく、隣町や、もしくは車で何時間とかかるところの就職になってしまう。

就職先を確保する為には、各地で行っているIターン・Uターンプロジェクトを赤沢で行うことが必要となってくる。就職先を提供し、Iターン・Uターンを希望する若者を受け入れることが赤沢宿を今後保存・再生していく為に必要なことになってくるが、具体的施策（観光振興等）については、今後多様な可能性を検討していく必要がある。それには、地区内組織の活動には限界があることから、外部の人智（例えば大学）を取り入れ、活動組織を再構築していく必要がある。

---

### 〈参考文献・URL〉

- 1) 真島俊一他 TEM研究所編「山梨県早川町・伝統的建造物群保存対策調査報告 赤沢」山梨県南巨摩郡早川町 1992.4
  - 2) 保岡孝之「『伝統の町並み』の歩き方」青春出版社 2003.7
  - 3) 柴田彩子 赤沢青年同志会によるまちづくり活動の分析：山梨県南巨摩郡早川町の事例 2001.1
  - 4) 向井真行 山間集落における家並み保存活動による地域活性化に関する研究—山梨県早川町赤沢を事例として— 2004.1
  - 5) 遊佐敏彦 空き家の管理・利活用に関する研究 その1—山梨県早川町における空き家の実態調査 日本建築学会大会学術講演梗概集 2006.9 P611~612
  - 6) 甘利未来 地域資源の保存・再生利用に関する調査・分析 2006
  - 7) 全国伝統的建造物群保存地区協議会ホームページ [http://www.denken.gr.jp/d\\_main.html](http://www.denken.gr.jp/d_main.html) 2006.4
  - 8) 2000人のホームページ [http://www.town.hayakawa.yamanashi.jp/2000\\_top.html](http://www.town.hayakawa.yamanashi.jp/2000_top.html) 2006.10
  - 9) インターネットやまだらけ <http://www.town.hayakawa.yamanashi.jp/fm/> 2006.10
  - 10) 山梨県庁ホームページ <http://www.pref.yamanashi.jp/>
  - 11) 山梨労働局ホームページ <http://www.y-roudoukyoku.jp/>
-